



# 楠の葉

佐賀大学同窓会報 第32号

発行日 2020年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学 菱の美会館内  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700  
E-mail dousoukai@sadai.jp  
ホームページ <http://sadai.jp/alumni/>

編集代表者 徳安和博



## 学長就任のご挨拶

国立大学法人佐賀大学 学長 兒玉 浩 明 (理工・S58年卒)

新年、明けましておめでとうございます。

昨年10月1日に国立大学法人佐賀大学長を拝命しました兒玉でございます。同窓会の皆様には、平素より本学の運営、特に学生の学習環境の充実及び就職支援等に多大なご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。私自身、佐賀大学理工学部の卒業生であり、教員となってからも、教育・研究に携わってきました。また、平成29年10月から2年間、教育・学生担当の理事・副学長を務めていたこともあり、皆様のお力添えを多数目の当たりになってまいりました。このたび、浅学菲才の身ながら学長に就任したことを機に、同窓会の諸先輩方に改めて日頃の感謝の想いをお伝えするとともに、皆様のご助言をいただきながら、より良い大学運営を進めていくことをお約束したいと思います。

さて、与えられた4年間の任期期間中、「志・挑戦・そして未来へ」というキャッチフレーズのもと、大学運営を進めていきたいと考えています。すべての学生は佐賀大学に志をもって入学してきます。在学中は自身にとって初めてのことで、新しいことに挑戦し、失敗を重ねながらもそれを糧として、そして未来へ進もうと努力します。それは教職員も同様で、構成員全員が何かしら「チャレンジしたい」という気概を持っており、キャンパス全体にそういった挑戦を温かく見守り、それを後押ししようという土壌があるのだと感じています。この気持ちをさらに大きくしていくために、現代社会の著しい変化に対応し、大学自身も変わらねばならないと考え、私の決意としてこのメッセージにまとめました。本学構成員だけでなく、この機会に同窓会の皆様ともこの想いを共有できればと思っています。

さて、国立大学は令和4年度から第4期中期目標期間を迎えます。文部科学省は今後の高等教育が目

指すべき姿を踏まえ、国立大学の今後の改革の方向性を提示した「国立大学改革方針」を発表しました。この中に各国立大学の規模の適正化を含めて大きな転換を図る動きがあることをお聞きになった方も多々と思います。このような状況下にあっても、先達が築き、育み、守り、そして私たち後輩へ託されたこの佐賀大学には、次代へ残していくべき確かな伝統があり、ここにしかない教育・研究資源があります。そうした本学の強みを最大限活用し、大学改革の流れの中でも特色ある大学として認知され、地域に根差し、地域に必要とされる大学として活躍していきたいと考えています。

現在の国立大学が新たな価値の創出、イノベーションを起こすためには、学内資源だけでは十分とは言えません。佐賀県をはじめとする行政機関、県内私立大学や高校等の教育機関、経済界や企業、NPOや地域住民に至るまで、あらゆる方々のご理解とご支援をいただいで初めて、地域における知の拠点として存在感を発揮できるのだと思います。

そしてその中でも、最もご協力をいただきたい組織が佐賀大学同窓会です。そのために、これまで以上に大学の現状をご理解いただくことが必要だと感じていました。先日も同窓生から厳しくも率直なご意見をいただきました。我々自らでは気がつかないことがたくさんございます。定期的に同窓会長をはじめ役員の方と意見交換を行い、また支部の同窓会にも参加させていただきながら、大学が同窓会にお願いしたいこと、同窓会が大学に期待することを共有しながら、より良い大学づくりに取り組んでいければと思います。

引き続き、格別のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 支部だより

## 福岡支部会開催について

令和元年10月18日、福岡市天神の西鉄イン福岡「ブロッソ」において、第22回福岡地区全学同窓会を開催しました。来賓として、大学本部より各同窓会の代表の皆様5名と同窓会員41名、合計46名のご参加を頂きました。

今回の同窓会も、清村克行実行委員長を中心として常任幹事19名により、実行委員会を数回開催し、準備を行ってきました。

開会宣言後、物故者への黙祷を行いました。

続いて御来賓の方々をご紹介し、代表して川副操佐賀大学同窓会会長のごあいさつを頂いた後、懇親会が始まりました。

毎回出会うなじみの方、久しぶりに参加された方、初参加の方、参加者のみなさんが母校に想いを馳せながら、話の輪が広がっておりました。

先輩・後輩のたて糸と、同期生のよこ糸それぞれに親睦が深まり、締めめの寮歌・学生歌を全員で歌い、

さらに熱く盛り上がりを見せました。

最後に常任幹事の紹介があり、2年後の再会を約束し、閉会しました。

今回来られなかった皆さん。次回はお誘いあわせの上、ぜひ大勢来られますように。また、次回も笑顔でお会いできますよう皆様ご自愛ください。

ちなみに学部別では、文理7名、経済17名、理工6名、教育（文化教育）6名、農学5名の参加でした。

支部長 清村 克行（経済・S46年卒）



## 長崎支部総会・懇親会

今年は、総会及び懇親会を令和元年11月8日(金)18時30分から、ホテルニュー長崎で開催し、川副佐賀大学同窓会会長、穂屋下理工学部同窓会会長、水田農学部同窓会副会長、黒木有朋会副会長にも臨席いただきました。

長崎支部再始動から5年目となった今回は、参加者が17名（うち女性3名）と例年より少なめでしたが、来年は今回の出席者一同、佐賀大学の卒業生の知り合いに声を掛け、是非一緒にこの総会にご出席いただこうと誓ったところです。

総会は、長崎支部会長あいさつの後、来賓の佐賀大学同窓会会長 川副操様のご祝辞を賜り、幹事の会計報告に続き、鳥巢昭夫様（S39文理）の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

懇親会では、恒例となりました出席者全員による自己紹介があり、近況や在学中の思い出などを楽し

く話していただき、来賓の方にも一言ずつご挨拶をいただきました。

和やかな雰囲気の中、最後は、今回初めて参加された田平靖夫様（経済・H5年卒）の万歳三唱で総会が終了しました。

今後とも、長崎支部に対しまして、益々のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

支部長 高比良則安（経済・S54年卒）



## 東海支部同窓会報告

令和元年11月10日(日)12時から、名古屋駅前の名鉄グランドホテルにて2年に1回の第24回東海支部(不知火会)総会を開催しました。

支部からは文理・経済・教育・理工・農学の各学部会員16名と、同窓会本部からは川副全学会長、山田有朋会会長、穂屋下理工会長、同 島副会長、小池農学会長、荒木楠葉副会長の6名の役員、合わせて22名が出席し、ささやかではありますが賑々しく、また楽しく語らいの場が持てました。

これまで昨年3月から4回の準備会を恒川(農学)、御厨(教育)、高山(理工)各氏と私(経済)の4人で進め本部事務局に助けられながら、この支部会を開催出来ました。

支部会では先ず支部から準備経過などを報告後、同窓会本部の川副会長から同窓会や佐賀大学全体の最近の様子、各学部同窓会役員の皆さんからは各学部の状況について、お話しいただき同窓会の現況を皆で共有しました。

懇親会是有朋会山田会長の和やかな「ラグビーのトライ全得点と掛けて同窓会の発展(5+3=8点)ととく」のご発声で乾杯して始まり、暫し懇談の後、

支部出席者全員からそれぞれの近況報告などについてのスピーチで盛り上がり、佳境に入ったところで本部役員や支部古参会員の指導で巻頭言や寮歌、学生歌等に打ち興じました。

最後は副島さん(文理・S31年入)から支部活動と会員のこれからの健闘を祈念した中締で支部会を終えました。

魅力ある支部会のあり方が求められる一方、会員高齢化も加わり、次回案内は不要と回答される会員が増えていることも事実ですが、今回参加された会員を核に東海支部の灯を消さないよう、これからも有志会員で輪を広げる取組を続けます。

支部長 秋吉 英治(経済・S44年入)



## 令和元年度諫早支部だより

令和元年11月16日(土)午後6時30分より「L&Lホテルセンリュウ」にて、懇親会を開催しました。

本部より、理工学部同窓会長 穂屋下茂様、農学部同窓会会長 小池良美様、本部理事(事務局長) 平野禎亮様の3名のご出席を賜りました。

今回も参加者11名と寂しい数字で来賓の皆様方には申し訳ない気持ちでした。

参加者が固定している中で、唯一嬉しいことに佐々木雄一氏(理工・S55年卒)が新しく自ら参加を申し込まれ感激しました。なお、探検部出身で、その体験談(有明海をイカダで天草方面まで潮流を研究しつつ巡行しマスコミにも取り上げられた。)にも大いに聞き入りました。

さらに、各々も思い出話に花を咲かせ、少ない人

数ながら大いに盛り上がった事でホッとしました。

穂屋下会長から、新学長に本学理工学部出身の児玉浩明氏が就任された事や平野事務局長から「佐賀大学同窓会案内」のパンフレットの説明があり、加入促進のツールとして大いに活用しようと思った次第です。

支部長 宮下 武美(文理・S41年卒)



## 大分県支部総会・懇親会

令和元年11月23日、大分市内の「アートホテル大分」において、大分県支部「豊後がくれ会」の総会・懇親会を開催いたしました。

同窓会本部から川副操同窓会長をはじめとする5名の来賓にお越しいただき、支部会員24名（うち女性3名）が参加して盛会に行うことができました。

清末支部長のあいさつに続き、来賓を代表して川副同窓会長にあいさつをいただいた後に総会を開催。総会の経過報告では、田代先生（元佐大副学長）を囲む会（1月・2月）、中津での花見会（3月）や恒例のゴルフコンペ（5月）など、もりだくさんの行事が報告されました。

併せて次年度の行事計画を承認。来年の花見は津久見市での河津桜を見る会を行うなど様々な企画が予定されております。また、学生時代を過ごした佐賀県では、8月の豪雨で甚大な被害を受けたことに対し、何らかの支援が出来ないかとの提案があり、「会員有志による義援金の寄付」を行うこととなりました。

懇親会は来賓の各学部同窓会役員の方々にあいさつをいただいた後、文理OB谷本先輩の乾杯で開宴。

余興の「ビンゴ大会」では先着5名の景品を狙って、本部役員・会員で賑わい、楽しい時間を送りました。

もう一つの恒例行事、巻頭言「南に遠く」は乾杯の発声が続いて谷本先輩が元気に音頭をとられました。今回も5人の先輩が元気に踊りを披露していただきました。

学生時代の昔話や近況報告、仕事や趣味の話など楽しい会話に酒もすすみ、あっという間に時間は過ぎて終宴の時間。最後は8年間事務局を担当していただいた農学OBの佐藤さんの発声で来年の再会を約束して散会しました。

終了後に用意した募金箱には、会員の皆様からの義援金が集まり、学生時代の思い出の地「佐賀」に皆さん思いをはせたのではと感じました。

事務局 神取 禎久（農学・S62年卒）



## 佐賀市役所支部総会・懇親会

佐賀市役所支部では、7月26日に令和元年度の総会・懇親会を開催しました。総会では、初めての企画として、経済学部の中村学部長様から、「国立大学改革とEBPMのこと」について大変貴重なお話を聞かせていただきました。懇親会には、兒玉次期学長様をはじめ学部長の皆様、同窓会の川副会長様をはじめ副会長の皆様に、大変お忙しい中、ご出席いただきました。ありがとうございました。

早いもので、平成26年の支部再開から5年目となりました。現在、会員数は111名で、年々少しずつ増えております。しかし、今一つ盛り上がり欠けており、今後は、支部の認知度の向上とさらなる会員数の確保が課題であります。

さて、複雑多様化する住民ニーズに応えるため、行政と大学のさらなる連携は大変重要であり、佐賀大学に期待するところは、ますます高まってきております。このような中、現在佐賀大学では「グローバルな視野を持つ知の拠点」を目指し、大胆なキャ

ンパス改革に取り組まれております。社会の変容に対応できる人材が求められている今日、大学は行政のシンクタンクとして、行政は学生の活躍の場として、相互交流を深め、互いにWin-Winの関係であり続けることができると願っております。そのため、同窓会支部として何をすべきか、何が出来るかを問い続けてまいります。

結びになりますが、佐賀大学と同窓会のますますのご発展と、皆様のご健康とご多幸を心から祈念いたします。

支部長 眞崎 武浩（経済・S58年卒）





# 佐賀県内地区会



## 神埼支部だより

神埼地区会は令和元年9月28日(土)に割烹「菊水」において午後5時より、佐賀大学同窓会会長川副様、友朋会会長山田様、楠葉同窓会会長江口様、佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会会長西村様、理工学部同窓会会長穂屋下様、農学部同窓会会長小池様、佐賀大学同窓会理事長島様、佐賀大学同窓会事務局長平野様をご来賓としてお迎えして開催しました。毎年で開催で5回目となります。今年も神埼会規約により、会員の親睦と交流をメインにした内容を心がけました。前半を総会とし、会員の知的好奇心を刺激して、また会員の中から自発的に神埼会を大事にしたいという雰囲気が出てくるように学部を横断的に巡回していくようにした特別講話を実施しました。今年は農学部卒業生であり、現在長崎県立大学学長の木村務様に「最近の大学改革について」として35分程度ご講話いただきました。特に、2040年には受験生が80万人に減少するので国公立・私学を含めた大学再編と産学連携が強化され、より実践的な大学教育の実施が行われる内容が提供されて有意義な時間を過ごさせていただきました。また、総会のメインとなる協議・報告では①規約の改正②役員の交替について承認していただきました。その後、恒例により総会終了後に記念撮影を行いました。この

後、交流会に移り、花田副会長の開会挨拶に始まり、5学部の会長様よりご祝辞をいただきました。またその後、参加者を代表して吉岡光晴様に「乾杯のごあいさつ」を頂き、神埼会の会員2名が「尺八」「三線」をご披露して交流会が開宴しました。限られた時間の中で卒業年次・学部の違う老若男女が集い、親睦を深めていくという神埼会の目指す姿が今後の伝統となる様な雰囲気を感じました。最後には、参加者に歌詞を配布し、伝統を感じる「巻頭言」並びに佐賀大学学生歌「楠の葉」を全員で合唱して盛り上がったところで、閉会のご挨拶を志岐様にいただいて、無事、令和元年度佐賀大学同窓会神埼地区会を閉会しました。

会長 古賀 季夫 (経済・S50年卒)



## 有田地区会 第2回総会・懇親会

令和元年10月26日(土)、森清において、佐賀大学同窓会有田地区会の第2回総会・懇親会を開催しました。

今回は、同窓会より川副操会長を来賓としてお迎えし開催しました。また、佐賀大学からは小坂智子芸術地域デザイン学部学部長、吉永達雄学長補佐にもご参加いただきました。合計22名での開催でした。内訳は、来賓3名、教育学部・文化教育学部10名、経済学部4名、農学部2名、理工学部3名です。

総会では、規約の確認、役員改選等を行いました。続いて、懇親会では有田の物産等が当たる抽選会を行い、大いに盛り上がりました。

もともと有田地区会は、役場職員や町議会議員を中心に同窓会を行っていたものが土台となっています。肩のこらない集まりで情報交換等行ってきたも

のです。これからの課題は、若手の掘り起こしとくに広げていくかだと思っています。内容面の検討も行いながら充実させていきたいと考えています。

同窓会本部の皆様にもいろいろとご支援をいただいたことに感謝いたします。これからも、母校の発展に寄与できるよう努力していきたいと思います。

事務局長 栗山 昇 (教育・S55年卒)



## 伊万里地区第5回総会・交流会

令和元年11月30日(土)午後2時から、伊万里公民館研修室において、令和初となる佐賀大学同窓会伊万里地区会の第5回総会及び交流会を開催しました。

当日は、同窓会本部から川副操会長をはじめ、5名のご来賓、当地区会員25名の参加がありました。

総会においては、小杉地区会会長のあいさつに続き、川副会長よりごあいさつをいただいた後、会員発表として、山本正人氏（理工・S57年卒）に「海外へ、そして、インドへ…飛びました」と題し、これまでのご自身の人生を振り返りお話をいただきました。

交流会においては、「いまりハーモニカクラブ清香会（せいこうかい）」の岩永憲一良氏、松本昌倫氏、円田滋氏、吉富伸克氏の演奏による秋の歌の演奏に続き、参加者全員で「ふるさと」の合唱を行い、参加

者の心をつなげて歓談に入ったことから、学部や世代の垣根を越えた交流を深めることができました。

また、同窓会本部の皆様から各学部同窓会の状況についてご説明いただいたことに加え、お楽しみ抽選会などにより、大いに盛り上がり終了したところではあります。

ご出席いただいた皆様、本当にありがとうございました。

事務局 佐々木慎二（経済・H8年卒）



## 佐賀大学の風景



有田キャンパス

## お知らせ 佐賀大学同窓会報「楠の葉」のホームページでの閲覧

たて糸（先輩・後輩）と  
よこ糸（同期生）で、  
織りなす佐大の人間模様

佐賀大学同窓会

佐賀大学同窓会報「楠の葉」（第29号）でお知らせをしていましたが、これまで同様年2回の「楠の葉」の発行は継続しますが、会員の皆様への郵送は7月発行の年1回のみとなり、隔号毎の送付となります。

そのため、1月発行の「会報第32号」は同窓会ホームページに掲載し、会員への送付は行いません。佐賀大学同窓会のホームページを開きますと、左記の言葉が目に入ります。

ホームページでの閲覧をよろしくお願ひします。

## 同窓会NOW

## 有朋会（教育学部同窓会）

## 新学部同窓会の立ち上げについて

芸術地域デザイン学部 教授 徳安 和博（教育・H2年卒）



令和2年4月には、文化教育学部が教育学部と芸術地域デザイン学部へ改組されて4年が経ち、初めての卒業生が社会に出ます。教育学部の一期生はこれまでどおり有朋会に所属することになりますが、芸術地域デザイン学部の一期生の所属はどうすべきか、実は彼らの入学当初からこの議論は行われてきました。

議論を始めた頃は、卒業後10年くらいは有朋会に所属してもらい、卒業生の人数がある程度増えてから芸術地域デザイン学部同窓会として独立する方向で話は進んでいましたが、本年になってからは一期生の卒業と同時に新同窓会を立ち上げることを目標に組織づくりを進めることになりました。理由は同窓会が切り替わるまでの10年間に有朋会に所属した芸術地域デザイン学部卒業生の所属意識が新同窓会に上手く切り替わらず、宙に浮いてしまうのは同窓会全体にとって大きな損失であると判断したからです。

一方で就職してすぐの若い一期生に同窓会の運営

をお願いしなくてはならないという悩ましい問題もありますが、新同窓会役員の全学同窓会での業務負担を軽くする、当面の間は有朋会が業務の支援を行うなどの案が出され、現在までに規約案の策定、新会長候補者の決定、役員候補者の選定という段階まで進んでいます。幸いなことに意識の高い学生さんたちに役員候補者として集まってもらえています。2月頃には全学年を集めて、新役員が主催する芸術地域デザイン学部同窓会の立ち上げ式も行えればと思っています。

私は教育学部特美卒業、文化教育学部美術・工芸課程の教員、芸術地域デザイン学部の教員、同窓会の役員という立場から偶然今回の新同窓会の立ち上げに関わらせていただいています。立ち上げまでの時間も残りわずかになりましたが、引き続き皆様のご支援とご協力をいただきながら粛々と進めて参りたいと思います。

## 同窓会NOW

## 楠葉同窓会（文理・経済）

## これまでとこれからの私

財務部経理調達課 旅費・謝金主担当 齊家花菜子（経済・H31年卒）



佐賀に来てから5年の月日が流れました。平成17年に佐賀大学経済学部経済法学科に入学し、平成31年に卒業、現在佐賀大学職員として働いています。

学生生活を振り返ると初めは、実家が宮崎ということもあって周りに知人は少なく、初めての一人暮らしということで不安を感じていました。そこで、この不安な気持ちを「自分から何かしないとダメになる」という思いで、様々な行動を起こす原動力に変えていきました。積極的にサークルやアルバイト等に挑戦しようと思いました。その結果非常に充実した4年間を過ごすことができました。

特に、力を入れて頑張ったのは、ゼミでの活動でした。経済法学科のゼミは多種多様に存在し、中でも活動が活発なゼミを選択しました。ゼミでの活動は正直大変で課題の量も多く、ほかのゼミでの友人の話の話を聞くと楽で羨ましく感じることもありました。ですが、自分で選んだ道だからと、諦めず真剣に取り組んだ結果、ゼミの先生に認められ、信頼され、様々なことを任されるようになりました。ある公聴会で発表者として任命され、大勢の前で自分の研究を披露する機会を得ました。大変なプレッシャーでしたが、貴重な経験ができた、断らずによかったと、今では思います。同時に社会のことを学ぶいい勉強

にもなりました。

佐賀大学卒業後は就職活動の甲斐あって、無事佐賀大学職員になることができました。正直、就職活動中、心が折れかけることが何度かありましたが、佐賀大学での経験が糧となって諦めずにやり抜くことができました。

今日、社会人一年目として、与えられた仕事一つ一つを何とかこなせるようになってきたところですが、旅費等を計算する部署で、正確性が求められるため、一つのミスが周り全体に迷惑をかけてしまいます。責任の重大さは大学の時と比べるまでもなく大きく、時には失敗してつらいと感じることもありますが、上司が丁寧に教えてくださり、課長を含めた周りがフォローしてくださるので大変やりがいを感じています。早く自分がフォローにまわる側の立場に成長せねばと思います。

佐賀に来て5年ほどしか経っていませんが、本当に来てよかったなど、日々感じます。そんな佐賀の母校である佐賀大学の職につけたことを誇りに思います。これからも、私の仕事はどれほど母校の役に立っているかはわかりませんが、微力ながら力を尽くして陰から応援していきたいと思っています。

## 同窓会NOW

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会

### 全学同窓会誌「楠の葉」

医学部長 末岡榮三郎 (医学・S59年卒)



同窓会の皆様、こんにちは。このたび令和元年10月1日付で医学部長を拝命いたしました。まずご挨拶を兼ねて簡単な自己紹介をさせていただきます。

私は山口県萩市の農家の4人兄弟の末っ子として生まれ、山口県立萩高校を経て、1978年に佐賀医科大学の一期生として本学に迎えていただきました。

初代学長である古川哲二先生が掲げた自己学習、自己研さんの考えと、全人的な医療を目指す姿勢は、強烈なインパクトを持って私の心の中に生きています。私自身は空手部の活動に明け暮れ、決して勉強熱心な学生ではありませんでした。それでも、私を血液内科医に導いてくださった、初代血液内科教授斎藤英彦先生、研修医時代にうろちょろして落ち着かない自分を温かく指導してくださった先輩方のおかげで臨床医としての基礎、研究者としての根本となる考え方を身につけさせていただきました。

佐賀大学医学部は1978年に設立された佐賀医科大学を前身とし、2004年に佐賀大学と合併し、昨年で開催40周年を迎えました。記念事業に際しては同窓会の皆様や関係各位に本当に心強いご支援をいただ

きました。改めて心より感謝申し上げます。

医学部では、これまで地域医療への貢献を最重要課題として取り組んでまいりましたが、古川哲二初代学長が掲げた全人的な医療を目指す人材育成を根幹としながら、現在の医療事情に対応できる優秀な医療人を輩出したいと考えています。人材育成以外の活動としても、佐賀大学オリジナルの成果を上げつつあります。「人工知能(AI)を用いた眼底画像の支援システム」や、「バイオ3Dプリンタで作製した細胞製人工血管を移植する再生医療の臨床研究」など、全国的に見ても先進的な取り組みは少なくありません。また、診療情報地域連携システム『ピカピカリンク』をはじめとした地域連携の取り組みも高い評価を受けています。地域の先生方と一緒に佐賀の医療体制をより良いものにしていく、その思いのもとに皆様方同窓会の方々と共に活動していけたらと思っております。今後もよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 同窓会NOW

菱実会 (理工学部同窓会)

### I love Saga.

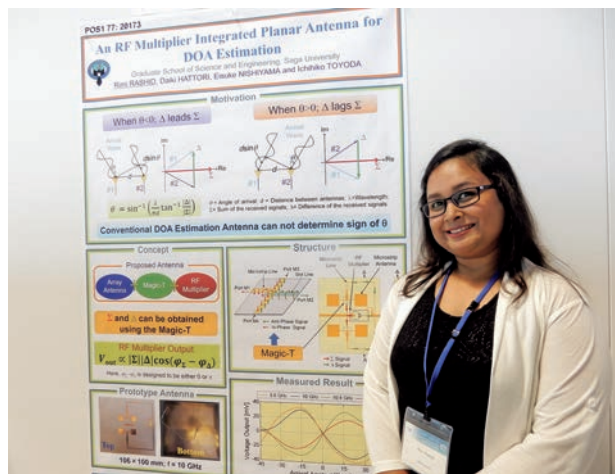
Bangladesh Atomic Energy Commission, Senior Engineer  
Rimi Rashid (工学系研究科システム創生科学専攻・H30年修了)

私は、2018年3月に佐賀大学で電磁波工学の博士号を取得しました。佐賀に滞在中、研究室の仲間、先生、留学生、バングラデシュのコミュニティ、その他の日本人と素晴らしい時間を経験しました。私は、多くの日本の小中高等学校で国際客員講師として講義を行った経験があります。また、ユニセフ、SPIRA、その他いくつかの日本の組織が主催する文化交流プログラムでの経験もあります。佐賀大学の短編映画「Secret Agents Go Abroad」の主演を務めました。この映画の主な目的は、佐賀と佐賀大学を

留学生にpromoteすることでした。3年半の日本滞在中に、できる限り日本の文化を体験しました。

私は幼少期に両親と福岡に住んでいたもので、日本で高等教育を受けるのが私の子供時代の夢でした。帰国後、東京近郊での公式トレーニングのために2回日本を訪れました。佐賀と佐賀大学は本当に恋しいです。特に佐賀の冬の季節が恋しいです。半ページではお伝えできないほどたくさんの思い出があります。また佐賀を訪れたいと思います。

※会報担当補足：Rimiさんに英語で原稿を書いてもらい和訳しました。promoteは適切な訳がわからなかったため、原文のままです。



国際学会で発表



冬の佐賀大学にて



## 同窓会NOW

## 農学部同窓会

## 農業を変える取り組みの一員として

株式会社オプティム ビジネス統括本部 農業事業部 星野 祐輝 (農学・H30年卒)



私は、2018年3月に佐賀大学農学研究科を卒業後、株式会社オプティムという会社に入社しました。オプティムは、社長が2000年6月に佐賀大学在学中に立ち上げた会社になります。農業分野では、2015年8月から佐賀県、佐賀大学、オプティムの3者で連携協定を締結し、現在は日本全国でスマート農業技術の開発及び普及に取り組んでいます。

中でも、最も力を入れているテクノロジーとしては、ピンポイント散布テクノロジーです。空撮用ドローンを用いて圃場の上空から撮影を行い、AI(人工知能)が病害虫の有無を検知することで、圃場のどこに発生しているかが把握できるため、発生箇所のみ散布用ドローンで農薬散布をすることができます。本ドローンにはRTK-GPSが搭載されており、誤差数cmでの飛行が可能です。これまでは発生有無に関わらず、防除暦や発生予報に従って全面散布していたものが、実際に発生している箇所のみ散布ができるようになり、農薬コストや労力コストを削減できます。全面散布に対して農薬散布量が非常に少なくなるため、生産された農作物は減農薬となり、消費者にとっても非常に価値があるテクノロジーです。

また、最も力を入れているビジネスモデルとしては、スマートアグリフードプロジェクトです。ピン

ポイント散布テクノロジーやドローンなどを生産者に無償で貸出し、その代わりに生産された減農薬農作物を買取り、高付加価値農作物として販売を行います。農作物の売上から、オプティムコストを清算して、出てきた利益は生産者とプロフィットシェアを行います。それにより、生産者はドローンを使った農薬散布代行ビジネスやプロフィットシェアによる所得向上にも繋がりますし、ピンポイント散布テクノロジーによって農薬代や肥料代、労力コストを下げることに繋がります。このビジネスモデルにより、生産者の利益を最大化できるのではないかと思います。

私自身は、上記テクノロジー開発とビジネスモデルのどちらも取り組んでおり、少しでも生産者の方々のためになるものを作りたいという思いで、様々な方々にご協力頂きながらプロジェクトを進めています。これまでの農業の産業構造を変えるような取り組みになるようにこれからも日々努力を続けていきます。



## 第27回佐賀県青春寮歌祭に参加して

黒木 正孝 (教育・S53年卒)

寮歌祭では「寮歌は老化を駆逐する」という合言葉がある。また、日本各地で開催されている寮歌祭に参加している方が「寮歌は地域の文化であり、日本遺産に認定申請をしたい」とも言われていた。

11月23日(土・祝)の午後に佐賀市のエスプラッツホールで27回目となる寮歌祭が開催された。全国30校余りの大学や旧制高等学校の寮歌や校歌の披露がある。佐賀県内在住の各校の卒業生を中心に他県からも老若男女延べ500名余りが集う。出入りは自由で一般参加者も多くある。佐賀市在住の北海道大学同窓会の大宅公一郎さんが事務局となりこれまで続けてこられている。

今回、佐賀大学は全学同窓会理事長の島公二武さんと農学部同窓会副会長の水田和彦さんの「揚げば星斗欄として 永久の真理を囁く 頭を巡らせば不知火 延々として……」という巻頭言で始まった。寮歌「南に遠く」と校歌・学生歌「楠の葉」と続いた。現役コーロカンフォーラ20名余りも参加してもらい、総勢約40名で披露した。

最後に私事となるが、今回で7回目の参加である。

毎回、学生時代に戻った気になる。他界した父(旧制鹿児島高等農林学校出身)が50年位前にお酒が入ると「黒潮岸に花と咲く 見よ南海の朝ぼらけ 雲金色に光満ち 山紫に明けんとす……」と口ずさんでいた。これも寮歌ではなかっただろうか。ネットで調べても分からない。ご存知の方は佐賀大学同窓会事務局に連絡いただければ幸いである。

次回は、令和2年は11月14日(土)に開催予定である。



# 佐賀大学同窓会は学生の就職や 大学祭などの支援活動を行っています！

## 令和元年度「キャリアデザイン講座」

佐賀大学の基本教養科目「キャリアデザイン講座」に、令和元年度も佐賀大学の同窓生 8 名が講師として、毎回90分の講話を行いました。今年度の受講者は300名で経済学部 4 号館の講義室がいっぱいでした。講師の方々からは現在の仕事のことや、現職に至るまでに大学時代からどのようなことを考え、どのような行動をしてきたのか、学生へのメッセージなどについて分かりやすく話をさせていただきました。

### 1. 「教員としてのキャリアデザイン」 令和元年10月23日(水)

講師：手塚 豊氏（理工学部 平成14年卒）：小城市立小城中学校 勤務

### 2. 「民間企業としてのキャリアデザイン」 令和元年10月30日(水)

講師：黒木 泰彦氏（経済学部 平成11年卒）：株式会社 ヤマコ 勤務

### 3. 「保健師としてのキャリアデザイン」 令和元年11月 6 日(水)

講師：島ノ江 里美氏（医学部 看護学科 平成11年卒）：自営のクリニック

### 4. 「民間企業としてのキャリアデザイン」 令和元年11月13日(水)

講師：中村 正太氏（理工学部 平成29年卒）：株式会社 中野建設 勤務

### 5. 「公務員としてのキャリアデザイン」 令和元年11月27日(水)

講師：木下 剛仁氏（農学部 平成 8 年卒 大学院 平成10年修）  
：佐賀県農業試験研究センター 勤務

### 6. 「芸術を活かしたキャリアデザイン」 令和元年12月 4 日(水)

講師：大神 明氏（文化教育学部 平成25年卒）：株式会社 ブレイン 勤務

### 7. 「公務員としてのキャリアデザイン」 令和元年12月11日(水)

講師：宮崎 咲江氏（農学部 平成24年卒）：佐賀県庁 スポーツ課 勤務

### 8. 「民間企業としてのキャリアデザイン」 令和元年12月18日(水)

講師：古藤 英樹氏（農学部 平成 3 年卒）：佐賀県農業協同組合 勤務



## 第22回 佐賀大学大学祭 葉隠祭

令和元年10月19日(土)、20日(日)の2日間にわたり、佐賀大学本庄キャンパスにて、第22回佐賀大学大学祭葉隠祭を開催いたしました。たくさんのご指導、ご協力ありがとうございました。この度、佐賀大学大学祭は佐賀大学大学祭 葉隠祭へと生まれ変わる事となり、来場者数は両日合わせて5,827人と、おかげさまで今年も大学祭を無事大盛況で幕を下ろすことが出来ました。葉隠祭の由来となった葉隠というのは「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」で有名な、肥前国佐賀鍋島藩士 山本常朝が武士としての心得を書いた書物「葉隠」からとられました。この「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」というのは非常に勘違いされやすいのですが、潔く死ぬのが武士というものであると説いたものではありません。自己を中心とした利害に基づいた行動をするのではなく、自己を捨てた心境にこそ最良の行動が出来るという葉隠の真意を説いているのです。我々中央実行委員会はこの葉隠の真意を胸に秘め、この来るべき日のために1年間準備して参りました。

総合情報基盤センター前駐車場の野外特設ステージでは、「ゴー☆ジャス」さん、「ペンギンズ」さんによるお笑いライブを開催いたしました。幅広い世代の方々にお楽しみいただけたのではないかと思います。これもまた、今大学祭の満足度を高めるイベントとなりました。野外特設ステージではお笑いライブの他にも様々な企画を行いました。歌合戦やビンゴ大会など、限りはございますがご来場の方全員が参加可能な企画から、大学祭に向けて練習を重ねてきた佐賀大学所属の音楽サークルによる本格的なバンド演奏、実行委員会が自ら考案したゲーム企画まで、バラエティ豊かな内容で賑わいました。

学生が主体となって、約半年間にわたり会議を重ねながら出店するメインストリートでの模擬店や、学内各所での展示発表など、ご来場の皆様には普段とは一風変わった佐賀大学をお楽しみいただけたのではないかと思います。学生にとっても、模擬店の運営や展示準備などの過程がひとつの経験として胸に残るものとなっていけば嬉しく思います。

毎年ご来場される方々にも、初めて来場された方々にも素晴らしい思い出の大学祭となれば幸いです。

最後になりましたが、大学祭にお越しいただいた皆様、大学祭の開催をご支援いただいた皆様に心より感謝いたします。来年度も実行委員会一同精進してまいりますので、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

第22回佐賀大学大学祭中央実行委員会 委員長 大下 鯨太



## 第2回医大祭を終えて

平成から令和へ、新元号への変遷と共に昨年に引き続き佐賀大学医学部（医学科、看護科）の単独開催の学園祭「医大祭」を無事開催できたことを学園祭運営委員会一同、心より嬉しく思っております。同窓会の皆様にはこの度の多大なるご支援ありがとうございました。

昨年の5月末に35年間続いて来た「むつごろう祭」から、「医大祭」として新しい形の学園祭を開催し、多くの方にご来場いただき、無事大成功のうちに終わって早一年。先輩達から意思を引き継ぎ、より良い学園祭を作り上げていくことは決して簡単なことではありませんでした。

しかし、共に1年間役員・リーダーとして頑張ってきた仲間達、去年同じ思いをされたであろう先輩

方の多大なる支えがあり、この素晴らしい学園祭を作り上げることができました。

僕たちが引き継いだ素晴らしき学園祭の文化を、令和の時代と共に毎年研鑽させて成長していきながら続いていくことを願ひまして、委員長の挨拶とさせていただきます。

第2回医大祭運営委員会 委員長 近藤 匠



## 佐賀大学ホームカミングデー

佐賀大学校友会主催のもと「第8回佐賀大学ホームカミングデー」が、令和元年11月16日(土)に佐賀大学本庄キャンパス（理工学部6号館2階多目的セミナー室）で開催されました。

佐賀大学同窓会としても同窓生への参加の呼びかけや同窓会役員等も参加するなど、校友会と連携を取りながらホームカミングデーを盛り上げました。

セレモニーでは大学の現状報告について、佐賀大学 児玉 浩明学長からお話がありました。佐賀大学同窓会 川副 操会長からも今後とも母校である佐賀大学の発展のために、同窓会としての協力を続けていくことの話がありました。

続いて「突然変異を使った品種改良技術の新展開」について穴井 豊昭教授の研究紹介、校友会学生活動支援事業による奨励金受給者からの報告がありました。

その後、参加者全員による記念撮影があり、希望者による農学部1号館北側に新たに建てられた植物工場見学があり、最後は学内の「かささぎホール」に場所を移動し、和やかに懇親会が催されました。



川副会長の挨拶

### 同窓会の動き (R 1.8 ~ R 2.3)

- 8.2 佐賀大学同窓会「臨時代表役員会」  
／菱の実会館
- 10.10 佐賀大学同窓会「第3回代表役員会」  
／菱の実会館
- 17 佐賀大学同窓会「秋期定例役員会」  
／菱の実会館
- 11.16 第8回佐賀大学ホームカミングデー  
／佐賀大学本庄キャンパス
- 23 第27回佐賀県青春寮歌祭  
／エスプラッツホール

- 12.12 佐賀大学同窓会「第4回代表役員会」  
／菱の実会館

#### 令和2年

- 1.1 佐賀大学同窓会会報「楠の葉」第32号発行  
(ホームページでの掲載)
- 2.13 佐賀大学同窓会「第5回代表役員会」  
／菱の実会館 (予定)
- 3.24 佐賀大学学位記授与式  
／佐賀市文化会館 (予定)

### 令和元年度 同窓会地区会及び支部会の開催

#### 地区会(県内)

- 7.26 佐賀市役所支部会(職域)
- 9.21 佐大会  
(佐賀県立学校管理職の集まり)
- 28 神埼地区会
- 10.28 有田地区会
- 11.30 伊万里地区会
- (令和2年)
- 2.8 唐津地区会 (予定)

#### 支部会(県外)

- 5.18 熊本支部会
- 10.18 福岡支部会
- 11.8 長崎支部会
- 10 東海支部会
- 16 諫早支部会
- 23 大分支部会
- (令和2年)
- 1.18 鹿児島支部会 (予定)
- 2.8 関西支部会 (予定)

ご意見  
メール  
等募集

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受け付けております。

名前・住所変更等  
ご連絡の  
お願い

名前・住所等が変更になられた場合は、必ず同窓会事務局へご連絡ください。  
Tel : 0952-23-1253 Fax : 0952-25-5700  
E-mail : dousoukai@sadai.jp